

研究班ホームページ トップページ

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

患者・市民参画と広場ができるまで このサイトでできること 研究班について 受講者向け一覧 研修企画者はこちら

がん研究に参画しよう！

【研修会企画者向け】カリキュラムを基...
**カリキュラムを基にした
研修会開催方法**
～カリキュラム・コードのつけ方と
開催報告の手順について説明します～

研修会
登録は
こちら

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

患者・市民参画と広場ができるまで このサイトでできること 研究班について 受講者向け一覧 研修企画者はこちら

せいかく
厚生労働省科学研究費補助金による研究班が作りましました
だから、より正しい知識を学ぶことができます

こうか的
どの範囲の何を学べばよいか、学びの道しるべをカリキュラムといいます。
カリキュラムに基づいているので、計画的・効果的に学べます。

きがるに
ID・パスワードの登録はいりません。

研修会
登録は
こちら

がん研究
患者・市民参画 マナビの広場

患者・市民参画と広場ができるまで このサイトでできること 研究班について 受講者向け一覧 研修企画者はこちら

がん研究に参画しよう！

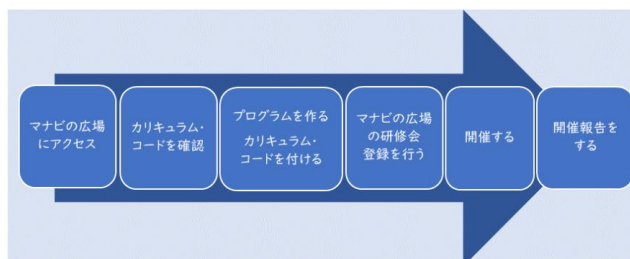
研修会
登録は
こちら



カリキュラムに基づいた研修会を開催する

カリキュラム・コードを活用した研修会を開催することは、患者・市民参画の啓発、普及の一助となります。ご協力をお願いいたします。団体等個別情報は除き、研修会開催数や参加者数の総和は年次報告として公表していく予定です。研修会の開催後、**開催報告**をお願いします。

手順



[カリキュラム・コードの確認はこちら](#)

[カリキュラムの紹介へ >>](#)

[プログラムを作るとき参考になる資料](#)

[研修企画者の手引きへ >>](#)

カリキュラム・コードのつけ方

1. プログラムに適応するカリキュラム・コードを選択します。
2. プログラムにカリキュラム・コードを記載してください。
 - ① カリキュラム・コード
 - ② 次の文章とQRコード

例を参考にして、プログラムに以下を記載してください。

厚生労働省科学研究で開発された患者・市民参画カリキュラムに
基づいた研修会です。詳しく知りたい方はQRコードへ



プログラム例：

○年度○○病院 がん診療連携拠点病院市民セミナー

多くの市民の皆様に参加を病前一案お待ちしております。

日 時：○年11月23日 13:00～15:00
開催形式：対面研修会
テーマ：『肺がんと信頼できる医療情報』

－ プログラム －

開会の辞：○○病院長

特別講演① 13:05～13:35

『肺がんの診断と治療』 研修会プログラムF がん-1

演者：○○科 ○○ 先生

特別講演② 13:35～14:05

『信頼できる医療情報の見分け方』 研修会プログラムF EB-2

演者：○○科 ○○ 先生

特別講演③ 14:10～14:55

『患者さん向け肺がんガイドラインを読んでみよう』 研修会プログラムF EB-1, 2

演者：○○科 ○○ 先生

閉会の辞：○○副院長

◎ 本セミナーは、厚生労働省科学研究で開発された患者・市民参画カリキュラムに基づいた研修会です。詳しく知りたい方はQRコードへ

主催：○○病院 協賛：○○医療会

・研修会登録は以下より

・開催報告はこちら >>

研修会登録

以下のフォームから開催予定の研修会を申請してください。

※申請いただいた研修会は内容を確認の上、疑義が生じた場合確認のためご連絡差し上げることがございます。

研修会の内容によっては掲載できない場合がございます。ご了承ください。

研修会登録

以下のフォームから開催予定の研修会を申請してください。

※申請いただいた研修会は内容を確認の上、疑義が生じた場合確認のためご連絡差し上げることがございます。

研修会の内容によっては掲載できない場合がございます。ご了承ください。

連絡窓口担当者

担当者メールアドレス *

※申請される方の氏名及び連絡先は申請内容の確認以外の目的で使用することはありません

開催団体 *

(例) 第○回 日本○○学会学術集会

団体種別 *

選択

難易度

- Pre-Start ことはじめ
- Start-up 自己学習～研修会参加レベル
- Advance 上級レベル

教育技法 *

- グループワーク
- 模擬的研修
- 討論
- 講義
- その他

研修目標の到達確認

- ミニクイズ（ミニテスト）
- アンケート
- 発表
- その他

サムネイル

 画像をアップロード

記事の上部に表示されます（推奨画像サイズ：横幅770px、縦幅440px）

研修会の案内 *

- チラシやパンフレット
- WEBページURL

研修会について案内する媒体を登録してください

申請する

社会の動きでみる患者・市民参画

日本では、がん対策について
「がん患者を含めた国民が協力して、取組を進めていくことが必要」で、
「多様な患者・市民が参画できる仕組みの整備」と
「患者・市民参画に係る啓発・育成の推進」が大切だと述べています。
(厚生労働省 がん対策推進基本計画（第4期））

患者・市民参画のキーワード



研修会
登録は
こちら



患者・市民とともに

そのために必要なこと



仕組みの整備



啓発・育成の推進

研修会
登録は
こちら

このサイトの目的

患者・市民の皆様が、がん医療・研究の参画の募集があった時、
手をあげてみよう、参画してみたいと
思ってもらえることを育むことにあります。

そのために、身につけるとよい能力・資質を整理し、
体系的に目標をまとめたものがカリキュラムです。

患者・市民参画をもっと知る

研修会
登録は
こちら

患者・市民参画6つの学習テーマ

患者・市民参画のための学習内容は、6つのテーマに分かれています。

興味のあるテーマをクリックしてみてください！



研修会
登録は
こちら



医療統計に触れてみよう
なぜ、必要？

科学的根拠が社会で
活用されるまで

がん医療・研究に関わる人が
守らなければいけないこと
知っておきたいこと

6つの学習テーマのカリキュラム

カリキュラムは、学びのランニングコースです。

受講者は、6つのテーマのどれから始めてみるか、どのような道を進んでいくか、計画を立ててみましょう。

研修会
登録は
こちら

カリキュラムの紹介

難しさも選択



研修会
登録は
こちら

Pre-Start

マナビの入り口

ことはじめ

Start-up

自己学習（知識の獲得）レベル

研修会（実践的）レベル

Advance

上級レベル

学習に活用できるメニュー



サイトの使い方



Webラーニング



用語集



準備中
外部学習コンテンツ



研修会

研修会
登録は
こちら

お知らせ

外部学習コンテンツ 研修会

- | | | |
|------------|-----------|---|
| 2023.09.20 | 研修会 | 第28回日本緩和医療学会学術大会PALランチョンセミナー1「患者・市民参画模範的... |
| 2023.08.28 | 外部学習コンテンツ | 大人のがん講座 |

研修会
登録は
こちら



がん研究
患者・市民参画マナビの広場



研修会
登録は
こちら

カリキュラムの紹介



がん研究への患者・市民が参画を実現するための 教育カリキュラム

カリキュラムは、ラテン語の「走る」(currere)を語源とした言葉で、ランニングコースのことを指します。

がん研究に参画していく自信を得て頂くまでの道程に必要な要素を示したものが患者・市民参画教育カリキュラムです。

モジュール

モジュールは学校の時間割、カリキュラムは学習要綱に相当しています。

令和4年 厚生労働省医科学研究費助成事業推進型研究費
がん研究に患者・市民参画を実現するがん研究・市民に対する参画カリキュラムプログラムの開発に関する研究費(22CA1001)

学習内容 (学習目標)	単元 (学習目標)	単元 (学習目標)	単元 (学習目標)	単元 (学習目標)
がん研究 への参画 マナビ	1. がん研究の意義と参画の意義	2. 参画の意義と参画の意義	3. 参画の意義と参画の意義	4. 参画の意義と参画の意義
	5. 参画の意義と参画の意義	6. 参画の意義と参画の意義	7. 参画の意義と参画の意義	8. 参画の意義と参画の意義
	9. 参画の意義と参画の意義	10. 参画の意義と参画の意義	11. 参画の意義と参画の意義	12. 参画の意義と参画の意義
	13. 参画の意義と参画の意義	14. 参画の意義と参画の意義	15. 参画の意義と参画の意義	16. 参画の意義と参画の意義
	17. 参画の意義と参画の意義	18. 参画の意義と参画の意義	19. 参画の意義と参画の意義	20. 参画の意義と参画の意義
	21. 参画の意義と参画の意義	22. 参画の意義と参画の意義	23. 参画の意義と参画の意義	24. 参画の意義と参画の意義
	25. 参画の意義と参画の意義	26. 参画の意義と参画の意義	27. 参画の意義と参画の意義	28. 参画の意義と参画の意義
	29. 参画の意義と参画の意義	30. 参画の意義と参画の意義	31. 参画の意義と参画の意義	32. 参画の意義と参画の意義
	33. 参画の意義と参画の意義	34. 参画の意義と参画の意義	35. 参画の意義と参画の意義	36. 参画の意義と参画の意義
	37. 参画の意義と参画の意義	38. 参画の意義と参画の意義	39. 参画の意義と参画の意義	40. 参画の意義と参画の意義

(クリックでPDFファイルが開きます)

カリキュラム活用手引き

カリキュラムをさらに、研修企画者の手引きと照らし合わせた表です。

自己学習で取り組めるレベルと対面研修のレベル、さらにもっと上級者向けのレベルを一部のカリキュラムに例として挙げています。

中央社会 障害労働者科学技術者人材育成推進機構
本人研修(1) 研修 研修参加者による自己学習 本表に示す研修カリキュラム・プログラムの詳細に関する研究費(22EA1001)

研修 区分	研修 名称	研修 内容	研修実施の中心者		注
			実施 機関	実施 担当者	
研修 区分	研修1 研修 参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者	研修参加者	
	研修2 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者	研修参加者	
	研修3 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者	研修参加者	
	研修4 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習	研修参加者	研修参加者	
研修 区分	研修5 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	
	研修6 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	
	研修7 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	
	研修8 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	
研修 区分	研修9 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	
	研修10 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	
	研修11 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	
	研修12 対面研修	対面研修	研修参加者	研修参加者	

受講記録管理

受講記録を記入できるシートです。

カリキュラムは受講される方がご自身で計画を立てて受けていってください。すべてを受けなければいけないわけはありません。

中央社会 障害労働者科学技術者人材育成推進機構
本人研修(1) 研修 研修参加者による自己学習 本表に示す研修カリキュラム・プログラムの詳細に関する研究費(22EA1001)

研修 区分	研修 名称	研修 内容	受講記録					
			受講 回数	研修 参加者 数	研修 参加者 数	研修 参加者 数	研修 参加者 数	研修 参加者 数
研修 区分	研修1 研修 参加者による自己学習	研修参加者による自己学習						
	研修2 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習						
	研修3 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習						
	研修4 研修参加者による自己学習	研修参加者による自己学習						
研修 区分	研修5 対面研修	対面研修						
	研修6 対面研修	対面研修						
	研修7 対面研修	対面研修						
	研修8 対面研修	対面研修						
研修 区分	研修9 対面研修	対面研修						
	研修10 対面研修	対面研修						
	研修11 対面研修	対面研修						
	研修12 対面研修	対面研修						

① 患者・市民参画と広場ができるまで



患者・市民参画はPatient and Public Involvement(PPI)の日本語訳です。

国際的にはその他、Public Involvement (PI)、Patient Engagement (PE)、Patient and Public Involvement Engagement (PPIE) などを用いることもあり、用語が統一されていない状況にあります。

患者・市民参画(PPI)の取り組みに歴史のある英国では、

Patient and Public Involvement (PPI) means actively working in partnership with patients and members of the public to plan, manage, design and carry out research. It is "Research being carried out 'with' or 'by' members of the public rather than 'to', 'about' or 'for' them"

(National Institute for Health Research (NIHR), UK)

「患者・市民参画(PPI)とは、患者や市民と共に計画、管理、デザイン、研究の遂行をパートナーとして実行していくことを意味する。市民のためにはなく、市民とともに、市民によって実施される。」

国内の先駆的取り組みの団体であるPPI-Japanでは

「患者やその家族、市民の方々の経験や知見・想いを積極的に将来の治療やケアの研究開発、医療の運営などのために活かしていこうとする取り組み」(PPI-Japan ホームページより抜粋)

と、説明しています。

つまり・・・

一つの事柄の“計画の最初”から“普及啓発”までの長い期間において、医療者や専門家に患者・市民がパートナーとして加わることを参画と言い、参加より密接な関係を指します。



Participation (参加) 医療者が意見を聴き反映させたり終了後結果や知識を社会と共有する等の部分的関わりから、ガバナンス、優先順位設定、研究等における協力関係として Involvementと同義に使用されることもある。

平成30年（2018年）のがん対策推進基本計画ではがん研究に以下のように述べられています。

がん対策推進基本計画（平成30年(2018年)3月 閣議決定）

4. (1) がん研究

(現状・課題) P.69

治験、臨床試験に関する計画立案の段階から、**研修を受けた患者**が参画することによって、患者視点のアウトカムの提案や、患者のリクルートの適正化等をより高い精度で進めていくことの必要性が指摘されている。

(取り組むべき施策) P.70

国は、患者の声を取り入れながら、がん罹患後の社会生活に関する研究や、中長期的な後遺症に対する診療ガイドラインを作成するための研究など、**患者と**

パートナーシップ研究を推進する。

国は、治験をはじめとした臨床研究の情報を医療従事者や国民にわかりやすく提供するとともに、関係団体等と連携し、治療開発を一層推進する。

AMEDは、海外の研究体制と同様、我が国でも患者やがん経験者が研究のデザインや評価に参画できる体制を構築するため、平成30(2018)年度より、患者及びがん経験者の参画によって、がん研究を推進するための取組を開始する。また、**国は、研究の計画立案と評価に参画可能な患者を教育するためのプログラムの策定を開始する。** (<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000196975.pdf>)

**AMED(青字)：患者らが研究に参画できる体制を構築
国(赤字)：参画可能な患者を教育するプログラムを策定**

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究班 (22EA1001)

国内では、様々なところで研修が行われるようになりました。

ところが、どのような人材を育成すればよいかという議論がなかったため、それぞれの団体がその興味があるテーマで研修を開催しています。それでは、効果的な研修にならないことから、私たちは、がん医療、特に、研究などに患者・市民が参画することができるよう体系的カリキュラムを作成することにしました。これによって、多様な研修が繋

がるようになることを目指しています。

PPIに関する教育研修の問題とその対策方略

PPI：患者・市民参画

患者・市民 → 医療・参画を学ぶ必要

医療者 → 共働を学ぶ必要
(パートナーシップ)

患者・市民に対する研修の場

- ・ PPI専門性の高い団体（がん・非がん）
PPI Japan
- ・ 医療者の患者支援団体のプログラム
キャンサーネットジャパン
- ・ 学術団体の学術集会等におけるプログラム
日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会
日本肺癌学会、日本サイコロジ学会
日本サポートイブケア学会、日本緩和医療学会
- ・ 患者団体によるプログラム
全国がん患者団体連合会
ヘルスクア関連団体ネットワークの会 (VHO-net)
さきさきい医療人権センター (COMI)

・ どのような人材であれば、がん研究に参画できるのか描かれたものがない

↓
求められるコンピテンシー（能力）の明確化

・ それぞれの団体がその時の話題でプログラムを構成している。

↓
体系的カリキュラムの必要性

・ 様々な団体による研修

↓
研修の多様性の尊重と質の維持

・ 一つ一つの研修の質が不明

↓
**研修プログラムの評価
研修方法の評価**

・ 研修を受けたものの活用路が不確定
(研究者と患者・市民をマッチングするシステムがない)

令和5年(2023年)には第4期がん対策推進基本計画の中で、基盤領域の一つとして、初めて「患者・市民参画の推進」が盛り込まれました。参画できる仕組み(体制整備*)と啓発・育成(教育*)の二つの目標は変わらず、領域についてはがん研究*から一步展開し、国や都道府県の協議会等行政会議への参画の推進が含まれています。さらに、医療従事者、関係学会にも理解を求めています。

*第3期がん対策推進基本計画での記述

第4期がん対策推進基本計画(令和5年(2023年)3月 閣議決定)

4. これらを支える基盤整備 (p.59)

(5) 患者・市民参画の推進

(現状・課題)

国民本位のがん対策を推進するためには、国や地方公共団体と、患者団体等の関係団体

やがん患者を含めた国民が協力して、取組を進めていくことが必要である。また、その際には、多様な患者・市民が参画できる仕組みを整備するとともに、患者・市民参画に係る啓発・育成も併せて推進することが必要である。

(取り組むべき施策)

国及び都道府県は、国民本位のがん対策を推進するため、基本計画及び「都道府県がん対策推進計画」の策定過程について、性別、世代、がん種等を考慮し、多様ながん患者等のがん対策推進協議会及び都道府県協議会等への参画を推進する。また、諸外国の公募制、代表制等の事例も踏まえつつ、患者・市民参画の更なる推進に向けた仕組みを検討する。

国は、これまでがん研究分野で推進されてきた、がん患者及びがん経験者の参画の取組に係る知見について、患者・市民参画に関する研究成果も踏まえ、各分野への横展開を行う。

国は、患者・市民参画を推進するに当たって、参画する患者・市民への啓発・育成を行う。また、医療従事者や関係学会に対しても、患者・市民参画に係る十分な理解がえられるよう、啓発等に取り組む。

- 国 (緑):がん研究分野の患者・市民参画とその横展開
- 国・地方(青):多様な患者らのがん対策の協議会への参画とその体制整備
- 国 (赤):参画する患者らへの啓発・育成、医療従事者や関係学会への啓発

このマナビの広場は、患者・市民参画の目標の一つ、啓発・育成を進めていくために作られました。

② このサイトでできること



「がん研究 患者・市民参画マナビの広場」は、
みなさんががん研究のことを知ったり、学んだりできるように、と生まれたサイトです。
興味のあるコンテンツを見たり、用語集を学習に役立てたりするのも良いでしょう。
このサイトでがん研究について学び、
市民、患者の目線を大切にする日本のがん医療を応援していきましょう。

受講者の方

患者・市民参画とは

患者・市民参画について

1. Webラーニングで学ぶ。

Webラーニングへ >>

2. がん研究の用語を調べる。

用語集へ >>

3. 学べる外部サイトを調べる。

外部学習コンテンツへ >>

4. どのようなカリキュラムに基づいた研修会が予定されているか調べる。

研修会一覧へ >>

5. 今まで受講したことがないカリキュラム・コードで開催する研修会を探す。

研修会の検索画面へ >>

6. もっと強化したい（興味がある）カリキュラム・コードで開催する研修会を探す。

研修会一覧へ >>

カリキュラム一覧へ >>

7. 自分が学んだことを記録する。（受講管理）

受講記録管理へ >>

研修会を企画する方へ

1. 最近、開催予定の他の研修会の内容や傾向を知る。

研修会一覧へ >>

2. カリキュラム・コードを参照して研修会を企画する。

[カリキュラム一覧へ >>](#)

3. カリキュラム・コードを活用した研修会を登録する。

[研修会登録へ >>](#)

4. 研修会開催報告をする。(実績)

[開催報告へ >>](#)

外部学習コンテンツ（動画等）でカリキュラム・コードを活用してくださる方へ（外部学習コンテンツ企画者）

現在公募していません

外部学習コンテンツ



がん研究
患者・市民参画マナビの広場

カリキュラムを活用した外部学習コンテンツ一覧

外部サイト上でカリキュラム・コードを付けて公開されている、がん研究について学ぶことができる動画や資料を確認することができます。

[外部学習コンテンツを確認する](#)

自身が公開している学習コンテンツ（動画等）の登録申請

自身のホームページ等で公開している学習コンテンツにこのサイトで紹介しているカリキュラムコードを活用するための登録申請を行うことができます。



外部学習コンテンツで患者・市民参画カリキュラム・コードを活用して くださる方へ (外部学習コンテンツ企画者)

カリキュラムとは

患者・市民ががん医療等に参画していくための学びは、近年、多様化しています。これを効果的に結び付けるために、能力・資質を整理し、体系的に学習目標を構成したものを**カリキュラム**と呼んでいます。



カリキュラム・コードを付けることのメリット

患者・市民の方々が、貴サイトで学習した際に、それが体系的カリキュラムのどれに相当するか知ることができます。それによって、受講者は、学習計画を立てたり、自分の受けた講義の管理を行いやすくなります。

登録できる外部学習コンテンツ：研究班研究者等から推薦を受けたもの
内容：患者・市民ががん等の医療に参画していくための自己学習が可能な難易度のもの

[外部学習コンテンツを確認する](#)

手順



手順

- 貴サイトに適応されるカリキュラム・コードを選択してください。
(カリキュラム一覧はこちら)
- 以下の申請フォームから申請します。
- 申請後、担当者が内容を確認の上、バナーとURLについて連絡いたします。お送りしたバナー及びURLを貴サイトに掲載し、本サイトにアクセスできるよう設定をお願いいたします。
- バナーをクリックして本サイトの外部サイト一覧に飛ぶことをご確認ください。

サイト管理者又は団体名

連絡窓口担当者



研修会一覧



種別

研修会

カリキュラム・コードで検索

---未指定---

参画-1_興味

参画-2_参画チャレンジと意見交換

検索

2023.09.20

第28回日本緩和医療学会学術大会PALランチオン
セミナー1「患者・市民参画模擬的体験にチャ...

研修会登録はこちら

画像なし

③ 研究班について



私たちのプロジェクトは、令和4年度がん対策推進総合研究事業（一次公募）に選定された「**がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究**」という3年計画の開発研究です。

研究者一覧

(所属は令和4年4月時点)

研究代表者：

有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座）

研究分担者：

江口 英利（大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学1）

勝俣 範之（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科）

三森 功士（九州大学病院）

大滝 純司（東京医科大学医学教育学分野）

渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科）

片山 佳代子（群馬大学情報学部）

片野田 耕太（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所）

桜井 なおみ（がんセンター・ソリューションズ株式会社）

研究協力者：

樋口麻衣子（富山AYA世代がん患者会Colors）

眞島 喜幸（パンキャンジャパン）

佐々木 治一郎（北里大学医学部附属新世紀医療開発センター）

西森 久和（岡山大学病院血液・腫瘍内科）

山口 拓洋（東北大学大学院医学統計学分野）

カリキュラムを例えば、A、B、C・・・と表現するならば、次のようなイメージで受講を修了することができるようになります。

患者・市民参画教育カリキュラム・コードの活用例

次の目標を立てる

CDEFの中でもFがまだなので受けたい

ABをもう少し受けてみよう

浅く広く受けたので研究に参画してみたい

Bは受けていないけれど、動画の基礎研修は自己学習したので、研究に参画してみよう

研修したコード

ABCD(一部) E

ABCDEF

ABCDEF

ACDFE

受講者

研修企画者

***カリキュラムからコードを選択し、患者支援プログラムを立案。本サイトに登録。受講者募集時に選択した単位を明示する。

臨床腫瘍学会
PAP
選択コード***:
A-2 B-1 C-2
D1 (部分)

癌治療学会PAL
選択コード:
A-1,2 B-2 C-2,4
E-1,2

癌学会SSP
選択コード:
C-1*4 D-1 F-1,2

他の団体*
選択コード:
A-1,2 D-1 E-1

* 学術団体、医療機関、患者団体、国・都道府県企業等

カリキュラム・コード

(内容は、カリキュラムのページで確認できます)

A (参画)	B (がん)	C (研究)	D (統計)	E (EB)	F (EL)
•A-1 •A-2	•B-1 •B-2	•c-1~4	•D-1	•E-1 •E-2	•F-1 •F-2

対面研修を受ける前に、基礎研修プログラム（Web-ラーニング、用語集）を自己学習できるようWebサイトに設置する。

研修企画者は、カリキュラム・コードを選択し、市民向け研修会を開催します。企画時に他の研修のコード使用状況を確認でき、重ならないように、またはあえて重ねたプログラムを構成することが可能になります。

またはあえて重ねたプログラムを構成することが可能になります。
受講者は、受講した研修会のカリキュラム・コードを自己管理することで、まだ学んでいないものはどれか、すでに受講したコードを強化したいといった次の目標を立てることができるようになります。
全カリキュラム修了ではなく、自己管理選択型の研修のため、自分に合った受講ができます。

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究班（22EA1001）

今、カリキュラム案を作成し、アンケート調査などを実施し、改定を繰り返し、最終的に実効性があるものを作り上げる作業をしています。

この研修には二つあります。

・基礎研修プログラム：

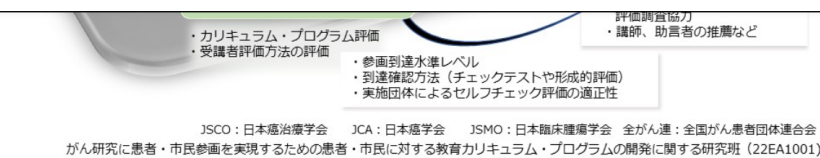
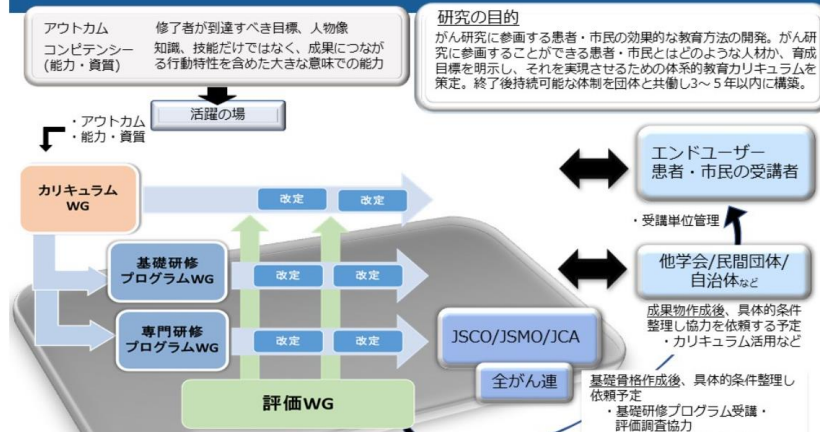
用語集、Webラーニング（繰り返し自己学習ができる）

・専門研修プログラム：

日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会の患者支援プログラムに協力頂き、カリキュラムを使ったプロ

ラムを実施し、カリキュラムに漏れた項目がないか、難易度は適切かなど検証していきます。

アウトカムとコンピテンシーを踏まえた本研究の目的と戦略



この開発研究によって患者・市民参画教育カリキュラムを策定すると期待されることには、次のようなことがあります。

1. 患者・市民らが、受講コード管理によって自己学習目標を立てながら、体系的に研修を受けることができ、がん研究に立案段階から参画できる能力 (コンピテンシー) を修得することができる。
2. 教育カリキュラムを策定することで、多くの患者・市民参画の研修を実施する団体 (学会など) において、どのような研修プログラムを設定すれば患者・市民にとって良い効果をもたらすか、指標になる。
3. 教育カリキュラムの到達するレベルと獲得する能力 (コンピテンシー) を評価することにより、患者・市民に対するがん研究参画のための教育内容、効果的な方法を明らかにすることができる。
4. 研究に立案段階から参画できる患者・市民が増えることで、がん研究者がリクルートしやすくなる。

5. 模擬トレーニングなどのプログラムにより患者・市民はより実践的な能力を得ることが期待され、がん研究者との円滑な共働関係を形成することができる。
6. がん研究に患者・市民の声が反映されることで、患者視点のアウトカムの提案や患者のリクルートの適正化などが可能となり、広く医療の質や社会の福祉の向上に寄与する。

皆さんと共に、患者・市民参画を学ぶ環境を作っていきたいと思います。
どうぞ、仲間になってください。
そして、本サイトを活用してってください。
市民、患者の目線を大切に日本のがん医療を応援していきましょう。

お問い合わせはこちら

氏名

メールアドレス

件名

メッセージ本文 (任意)

送信

④ 受講者向け一覧

受講者向けコンテンツ一覧

1. 手引き（受講者向け）

2. カリキュラムの紹介

3. Webラーニング

4. 用語集

5. 研修会

6. 外部学習コンテンツ

⑤ 研究企画者はこちら



1. 手引き（研修企画者向け）
2. カリキュラムの紹介
3. 研修会一覧
4. 研修会登録
5. 開催報告